

『一人の笑顔のために』

起業体験活動の利益を『だれかの笑顔のために』

本年度の起業体験活動の利益（役員賞与分）で、昨年同様、令和2年人吉豪雨災害の復興支援に少しでも役立ちたいと、人吉のお店から商品を購入いたしました。写真のお菓子を生徒人数分購入させていただき、生徒全員に役員賞与として配布しました。

本年度は文化発表会、金栗マラソン大会と二度の販売活動を行う事ができたため、昨年度以上の収益があり、生徒分のお菓子を購入してもまだ残金がありました。その活用方法を各社で考えた結果、次のようになりました。

会社名	活用方法
マルシェア	熊本城復興支援のための寄付
ランニングまん	ユニセフへ寄付
なごみのわ	日本赤十字社へ寄付
おむすびころりん	和水町社会福祉協議会へ寄付
ほのかなあじ	
にじいろ	
寄付金総額	69,160円



生徒のみなさんの思いに感謝です。みなさんの思いやり溢れる行為に触れ、「本当の優しさ」にまつわる次の話を思い出しました。

本当の優しさ

小学生のころ、走りに自信があった俺は、運動会ではヒーロー。でも、仕事で忙しい母ちゃんは、俺の晴れ姿を見に来ることができなかった。

そして、ばあちゃんも来なかった。年寄りの自分が行っても、俺がかえって恥ずかしい思いをするのではないかと気にしていたようだった。

ばあちゃんが持たせてくれる弁当は、運動会の日も変わらず、梅干とショウガだけがおかずの質素なもの。（ばあちゃんは必死になって家のニワトリに卵を産ませようとしたけど、ダメだったのだ）

クラスみんなが家族といっしょにお弁当を食べに散っていくなか、ひとり涙をこらえ、教室で自分の弁当を広げたときのことだった。突然、担任の先生が教室に入ってきて俺に声をかけた。

「あのな、弁当取り替えてくれんか？ 先生、さっきから腹が痛くてな」

先生が言うには、梅干とショウガが入っている俺の弁当はお腹にいいらしい。

取り替えてもらった先生の弁当には、卵焼きにウィンナー、エビフライ……それまでに見たこともない豪華なおかずを、俺は夢中で食べた。

翌年も、また翌年も、不思議なことに、俺の担任の先生は運動会の日になると腹痛を起こした。六年生になって、ばあちゃんにこの話をすると、ばあちゃんは涙ぐんで、こう言った。

「それは、先生がお前のためにわざとしてくれたことや。

人に気づかれないようにするのが、本当の優しさだ」

それまで、俺は先生の腹痛の本当の意味にまったく気がつかなかった。

「佐賀のがばいばあちゃん」（著者：島田洋七）より